

1. 評価結果概要表

作成日 平成 22 年 4 月 1 日

【評価実施概要】

事業所番号	4070801297		
法人名	有限会社 さつき福寿サービス		
事業所名	グループホームさつき		
所在地	福岡市東区奈多3-4-16 〒811-0204 (電話) 092-605-5350		
評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成22年3月26日	評価確定日	平成22年5月13日

【情報提供票より】(平成 22 年 3 月 10 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15 年 8 月 15 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	11 人	常勤 3 人	非常勤 8 人 常勤換算 4.6 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての ~ 1 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	53,000 ~ 48,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有 (円)	無		
保証金の有無(一時金を含む)	有 (100,000 円)	有の場合償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	350 円	昼食	550 円
	地域の世帯役を担う	450 円	おやつ	150 円
	または1日あたり 円程度			

(4) 利用者の概要(3 月 10 日現在)

登録人数	8 名	男性	2 名	女性	6 名
要介護 1	2 名	要介護 2	4 名		
要介護 3	0 名	要介護 4	2 名		
要介護 5	0 名				
要支援 1	0 名	要支援 2	0 名		
年齢	平均 87.6 歳	最低	83 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	やまだ医院、雁の巣病院、福岡輝栄会病院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

日本家屋を改築しており、純和風の趣で落ち着いた佇まいである。さりげなく季節の花が活けられ、掃除が行き届いた室内はゆっくりと時間が流れており、家屋が持つ力と相まって、思い思いの場所で過ごす穏やかな利用者の表情から居心地のよさが伺える。五感に働きかける支援として食事を重要な支援と捉え、調理の際の音や匂い、見た目等に配慮し、食器や盛り付けに工夫が伺える。自宅での生活の継続支援として、町内会や子ども会・育成会との連携、近隣個人商店の利用など、普段着でのお付き合いが継続されている。ホーム長、管理者、職員が一体となり、利用者が自分のペースでゆっくりと、今を楽しみながら生活できるように支援している。利用者の尊厳を常に意識し、利用者の心に寄り添うケアを実践しているホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)	前回の外部評価結果については、職員会議で報告を行うなどの取組みがある。この過程において、利用者に出来る範囲で下膳をお願いすることにより、利用者職員とのコミュニケーションのきっかけとなるなどの成果が見られる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)	外部評価を行事予定として職員に周知している。自己評価内容は、ホーム長が記入後、管理者が確認し、職員会議時に周知するなどの取組みがある。
重点項目	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)	民生委員の方の来訪時、ホーム主治医の往診時、地域包括支援センターとの情報交換時など、その時々において情報交換が行われている。運営推進会議の開催意義を考察し、定期的・継続的な運営推進会議の開催を検討中である。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)	家族面会時の声かけやその都度の電話連絡、毎月のおたより及び各家族への月例報告の送付などを通じて、説明・報告が行われている。各家族への月例報告にて、利用者の身体面、精神面、暮らしぶりなどを詳細に知らせている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)	地域子ども会・育成会や町内会との連携のもと、ホーム駐車場を夏休みのラジオ体操の場所として提供したり、近隣保育園への訪問、地域夏祭りへの見学など、地域交流が行われている。

2. 調査報告(詳細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	開設当初より、利用者の自立、尊厳及び地域 との交流を意識した理念を作成し掲げている。 地域子ども会・育成会や町内会、近隣保育園と の連携のもと、地域交流が実現している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	日常のケアを通じて、利用者の自立に繋がっ ているか、尊厳は保たれているか等を確認しな がら、理念の実践に努めている。理念は、玄関 ホールに掲示されている。また、毎朝の申し送 り時に理念の唱和を行うなどの取り組みがある。		
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流すること に努めている	地域子ども会・育成会や町内会との連携のも と、ホーム駐車場を夏休みのラジオ体操の場所 として提供したり、近隣保育園への訪問、地域 夏祭りへの見学など、地域交流が行われてい る。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	外部評価を行事予定として職員に周知してい る。自己評価内容は、ホーム長が記入後、管理 者が確認し、職員会議時に周知するなどの取組 みがある。		自己評価を全職員がかかわって取り組むこと により、職員個々の気づきが生まれ、気づきに対 して積極的に考えていくことにより、職員の力がつ いていくと考えられますので、全職員がかかわって 自己評価へ取り組まれることを期待します。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員の方の来訪時、ホーム主治医の往診時、地域包括支援センターとの情報交換時など、その時々において情報交換が行われているも、運営推進会議としての場の設定は今後の課題である。		今一度、運営推進会議の開催意義を考察され、定期的・継続的な運営推進会議の開催へ取り組まれることを期待します。運営推進会議を利用して、家族への認知症の理解を深めたり、様々な情報提供や制度等についての理解の浸透が図られるような取組みを期待します。
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月に1度の民生委員の方の来訪、地域消防団との連携、その都度の地域包括支援センター職員との情報交換など、関係づくりへの取組みがある。		
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用した実例がある。職員間で成年後見制度等について、講演会や集団指導時の資料の閲覧を行っている。		必要時の説明や資料の閲覧に留まらず、運営推進会議等を利用して、地域包括支援センター職員から制度についての講義をしていただくなど、広く情報を発信し、繰り返しの制度の説明と周知に取り組まれることを期待します。
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族面会時の声かけやその都度の電話連絡、毎月のおたより及び各家族への月例報告の送付などを通じて、説明・報告が行われている。		
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時の声かけやその都度の電話連絡、毎月のおたより及び各家族への月例報告の送付などを通じて、家族の意見や要望等の表出に努めている。		
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職事例は少なく、開設以来の職員が6名勤務するなど、利用者との馴染みの関係が構築されている。新しい職員が入職した場合は、まずは利用者を知ることから入り、先輩職員が指導に当たるなど、馴染みの関係作りへの取組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	<p>人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の募集・採用に関して、年齢・性別・資格等の制限は一切行われていない。高齢者が好きか、世話好きか、その人なりの思いなどを重視しての採用である。手先の器用な職員が作品製作にかかわったり、絵が得意な職員が絵を描いたり、趣味の民謡を披露してもらうなど、職員の能力が發揮できるような取り組みがある。</p>		
12	20 追加	<p>人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>地域の世話役を担っている職員が在籍しており、その職員から人権についての話を聞くなど、人権啓発への取り組みがある。また、認知症シンポジウムへの職員の参加を通じて、人権について学ぶ機会がある。</p>		<p>新聞やラジオ、テレビ等での話題、日常生活での出来事など、幅広い視点での人権についての勉強会への取り組みや、行政等で行われる講話への参加など、職員一人ひとりの人権意識を喚起するよう、より一層の取り組みに期待します。</p>
13 (10)	21 (19)	<p>職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>各種研修案内や勉強会の案内の内容を確認後、職員の経験・スキルにより参加者を振り分けるなど、勉強会や研修への参加の機会がある。</p>		
14 (11)	22 (20)	<p>同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>各種研修や会議への参加を通じて、それぞれが抱えている悩みを相談したり、情報交換が行われるなど、他事業所職員との交流が図られている。研修参加後に、職員が他事業所の見学に赴くなど、同業者との交流を深める取り組みがある。</p>		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	3～4泊の体験利用の実施、事前面談等を通じて、顔なじみの関係の構築に努めている。入居後は、利用者の状況を見極めながら、家族の面会を促したり、その都度の電話連絡を行うなど、利用者の精神面に配慮した取り組みがある。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食材の知識やメニューへのアドバイス、地域の歴史、利用者の生き方など、日々のかかわりを通じて学びを得ている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりや介護計画書の作成時に利用者の思いや意向の把握に努め、家族面会時などを通じて、家族の意向等の把握に努めている。把握した思いや意向は、介護計画書に取り入れた支援がある。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者・家族の思いや意向を基に、サービス担当者会議で協議して介護計画書を作成している。その都度の協議や月1度の職員会議時に職員の気づきを共有するなどの取り組みがある。介護計画書の内容は、利用者の残存能力に着目した内容である。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行う とともに、見直し以前に対応できない変 化が生じた場合は、本人、家族、必要な 関係者と話し合い、現状に即した新たな 計画を作成している	その都度の協議や月1度の職員会議時に職員 の気づきの共有が図られている。6ヶ月毎及び 状況変化に応じた介護計画書の見直し・再作成 がある。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に 応じて、事業所の多機能性を活かした柔 軟な支援をしている	ホーム協力医による月2回の往診、ホーム協 力医との連携による専門病院の受診支援、訪問 美容の受入れ、地域子ども会・育成会や近隣保 育所との連携など、その時々に応じた支援があ る。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納 得が得られたかかりつけ医と事業所の関 係を築きながら、適切な医療を受けられ るように支援している	契約時に説明し、ホーム協力医または今まで のかかりつけ医を選択している。今までのかか りつけ医への受診は、家族対応である。ホーム 協力医による月2回の往診、ホーム協力医との 連携による専門病院の受診支援など、適切な医 療受診への支援がある。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、できるだけ早い段階から本人や家 族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し 話し合い、全員で方針を共有している	日々のかかわりを通じて、利用者の思いの把 握に努めている。主治医、職員、家族との協議 を重ね、意思の統一を図りながら看取り支援に 取り組んでいる。職員は介護を行い、家族に利 用者の心のケアをお願いするなど、ホームとし ての体制を明確にしている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	日々のかかわりを通じて、利用者を尊重した 声かけや利用者の反応の良い称呼が用いられて いる。介護記録等は直接目に触れないような場 所に保管するなど、適切に保管されていた。		
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースや状況に配慮して 支援が行われている。食事にかかる時間、日中 の過ごし方など、利用者のペースを尊重した対 応が見受けられた。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	テーブル拭き、下膳、食器洗いなど、利用者 のできることを活かした取組みがある。一日2 4品目を目標に、利用者の状況やメニュー内容 に応じて、目の前で小さく切るなど、目で楽し むことも重視しながら食へのかかわりを行って いる。		
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてし まわずに、一人ひとりの希望やタイミン グに合わせて、入浴を楽しめるように支 援している	月曜から土曜日までの間で、利用者の希望や 状況、主治医の指示に応じて入浴が実施されて いるが、毎日の入浴も可能である。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	利用者の気持ちに寄り添うケア・興味を持っ てもらうケアとして、裁縫、散歩、キーボード 演奏、トランプなど、介護計画書に取り入れて の支援がある。		
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	利用者の希望に沿った、その都度のドライブ や散歩、外食、地域行事への見学、ホームの庭 で過ごすなど、様々な機会を見ての支援があ る。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	日中は常に開錠されており、自由に入りが できる。利用者の状況や職員の状況等によりや むを得ず一時的に鍵を閉めることもあるが、予 めの家族への説明と了解を得ている。職員は利 用者の表情等により、声かけ、見守り、一緒 に出かけるなどの取り組みがある。		
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身に つけ、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	年に3回、避難訓練の実施がある。民生委員 の方の来訪、近隣の個人商店や町内会等との連 携など、地域の協力を得る為の取り組みがある。		非常災害時等における近隣住民との一層の連 携を検討されています。運営推進会議等を利用し た避難訓練への働きかけや取り組み、非常災害時 の連絡体制の構築から始められるなど、更なる地 域との相互連携・協力体制づくりに取り組まれるこ とを期待します。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	メニューは栄養士が作成している。一日24 品目を目標に、栄養価やバランスを考慮したメ ニューである。利用者の身体状況に応じて野菜 を下茹でしたり、目の前で小さく切ったり、お 粥を準備するなどの工夫がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	日本家屋を改築しており、純和風の趣で落ち 着いた佇まいである。家屋が持つ力とゆっくり 流れる時間に包み込まれ、思い思いの場所で過 ごす利用者の穏やかな表情から、居心地の良さ が伺える。		
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	各居室の窓から眺める風景はそれぞれ趣があ り、自然光を採り入れた明るい居室となってい る。仏壇、お位牌、テレビ、筆筒、キーボード など、利用者にとって馴染みの物や趣味の品が 持ち込まれており、利用者の人柄が伺える居室 となっていた。		

は、重点項目。
(数字)は、国の標準例による番号